J-22

タイ・バンコクの郊外に立地する水上マーケットに関する調査研究
水上マーケットの水辺の空間的・形態的特徴の把握　その１
A study on floating market located on the suburbs of Bangkok
The spatial and morphological characteristics of floating market　Part 1

○山下聡士[1]，並川茉央[1]，山崎未来[1]，畔柳昭雄[2]
*Satoshi Yamashita[1], Mao Namikawa[1], Miku Yamazaki[1], Akio Kuroyanagi[2]

Abstract: Bangkok has formed waterway extensive aspect artificially excavated canals and Canal network city. People's lives are closely to water, undergo the architectural spatial has maintained relationships with water. We figured the spatial and morphological configuration of the market get the planning implications for survey and survey of the literature conducted in this study, water and floating markets in living space and the urban in the floating market of Damnoen Saduak, Amphawa, Klong Bang Luang, Taling Chan 4 was formed in water. As a result, floating market is the typical location of workings of water in Asia, by urbanization in recent years it may have been extinguished found. However, endogenous efforts of the Government and residents through floating market plays as a new tourism resources.

１．はじめに

タイ国の首都バンコクは，長年東洋のベニスと謳われる程にチャオプラヤ川を中心にして周辺地域に人為的に開削された水路網・運河網を縦横に張り巡らせた水路の街を形成してきた．そのため，人々の生活は水に密接して営まれ，水の神ナーガの信仰や特有の親水性に満ちた暮らしを生み出し，建築的にも空間的にも水と関係性を深く保ってきた．

こうした水路・運河をタイ語ではクローン(Khloong), と呼ぶ．水路はこの地域が熱帯性モンスーン気候に属し，降水量が多く地形的に低海抜地域のため，チャオプラヤ川の氾濫を治める上の排水路としても治水上，必要不可欠な存在であった．また，隣接する他国からの侵入を防ぐ意味合いからも要されてきた．そのため，旧くは環濠城塞都市の築かれたアユタヤ王朝時代（1351~1767）頃から水路・運河は発展してきた．

しかしながら，1980 年代頃から次第に人々の生活に密着してきた水路網・運河網を埋め立てることでモータリゼーションの普及に合わせて，道路網の整備推進を図る取組みがなされてきた．そのため，チャオプラヤ川流域の氾濫原に都市形成がされてきたバンコク市内やその周辺部においては，雨季の時期になると冠水による内水氾濫が頻発するようになり，2011 年の雨季には大規模な内水氾濫が発生することで，多くの生産工場が水没被害を被り，タイ国内では経済的打撃は大きなものであった．

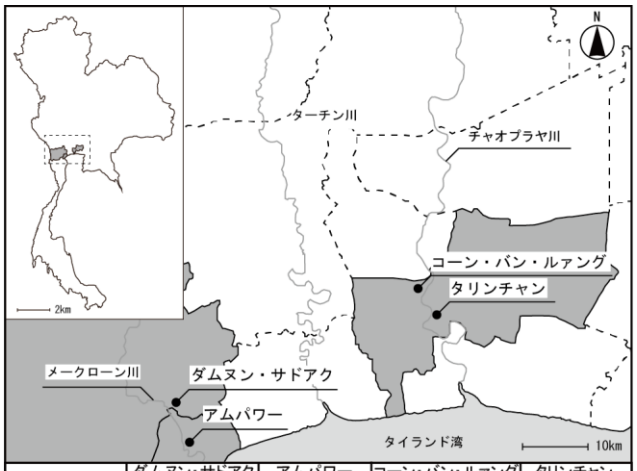
一方，水辺を地域・地区的に概観し，建築的な工法などに着目すると，水域には杭式，浮体式（筏式･浮函式含む）の住居，水際の陸域には高床式住居など，自然環境条件を考慮した風土的に多様な住居形態を見ることができる．また，水際住居においては，特有の空間としてバンダイ，ラビアン，ラビアノー，チャーン，サラターナムなどの空間が設けられると共に，内部空間においても床高にヒエラルキーが存在し，水に対する親和性や親密性に配慮した空間構成を見ることができ，水に対する空間的概念が存在することが分かる．尚，水辺（際）の住居はバーン･リム･ナムと呼ばれる．

そのため，こうした水路や運河に形成されてきた水際住居や水上集落における人々の生活や暮らしを支えるものとして，バンコクには旧来から水上マーケット（市場）が各地域の水路網上に形成され，各地から農産物や水産物，日用品などが持ち込まれ，水上は小舟で埋め尽くされる程の喧噪の中で商いがなされたり，地域住民に対して食料品の供給がされてきた．しかし，都市化の進行により減少･消滅する場所も増えている．

２．研究の目的

本研究では，こうした水上マーケットにおける水と係る生活空間や親水空間のあり方に対する計画的示唆を得るため，バンコク近郊に位置する水上マーケット 4 ヶ所を対象として，「その 1」では，水辺（際）に形成された市場の空間的・形態的構成を把握する．また，「その 2」では高温多湿な気候において，水際住居特有の空間が如何なる環境制御的効果を持つか実測調査を行う．尚，調査概要を Figure1 に示す．

１：日大理工・学部・海建 Nihon Univ.　２：日大理工・教員・海建 Prof, CST, Nihon Univ, Dr. Eng.



調査対象地	ダムヌン・サドアク（ラーチャブリー県）	アムパワー（サムットソン県）	コーン・バン・ルァング（バンコク）	タリンチャン（バンコク）
調査日	2013年9月13日	2013年9月13日	2013年9月14日	2013年9月14日
調査方法	実測調査，文献調査			
調査項目	河川断面形態，周辺環境			

Figure 1. Outline of the study

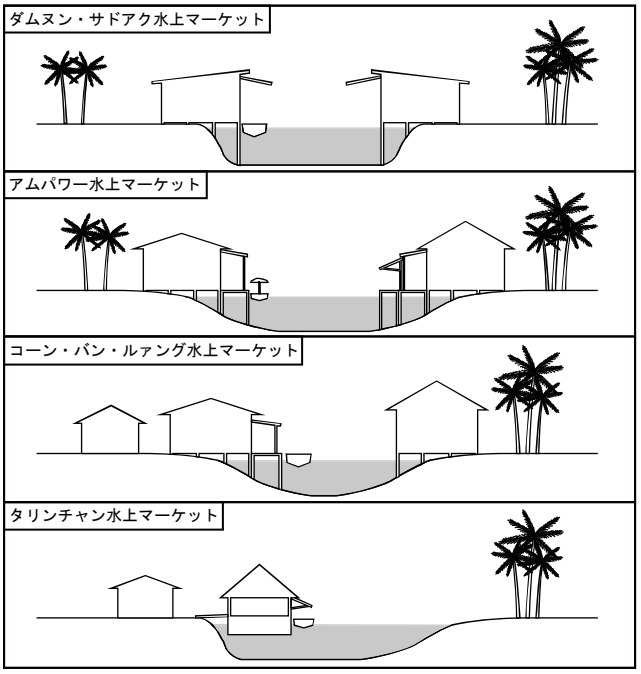


Figure 2. Section form of the floating market

３．水上マーケットの空間的・形態的構成

調査対象地は, バンコク近郊のダムヌン･サドアク，アムパワー，コーン・バン・ルァング，タリンチャンの各水上マーケットである．ダムヌン・サドアクはバンコクから概ね 110 ㎞程に位置し，アムパワーが 100 ㎞程，コーン・バン・ルァングとタリンチャンがそれぞれ 40 ㎞程に位置する．

ダムヌン・サドアクは，現在，人口 2000 人程で，道路整備により人口は増加傾向を示し，観光客も増加傾向にあり，新たにホームステイ事業などが導入されてきている．この地の水路網は全長 32 ㎞程あり，この水路の水際線に沿い民芸品や薬局などの各種店舗が並ぶが，水面との差は 20 ㎝程で僅差である．水路上にはルアーパーイ（手漕ぎの小舟）による麺販売や野菜・果物の小売りが行われ，住民の日常的な交通手段にはルアーハンヤオ（エンジン付き小舟）が使われている．こうした市場のある水路は地域の骨格をなすようにして存在し，その水路幅は広く形成されている．この水路に付随するように路地的（ソイ）な細い水路が多数設けられ，そこに各住居群が形成されている．また，市場のある水路は分散配置されており，それが集まり地域を構成している．細い水路は全長 20 ㎞程でその数は 1300 程であったが, 現在は 1000 程に減少している．さらに，この水路は水量が増加した時の保水機能を担っている．

アムパワーは 5000～10000 人規模の集落が 10 集落集まって構成され，近年はバンコクからの U ターンが増えている．市場の面する水路は約 3 ㎞で，細水路は 360 本程あった．また，1 村 1 品運動を展開し市場内に店舗を分散配置している．近年観光客数が増え 10 万/年程が訪れる場所となっている．水路に沿って両岸に各種店舗が並び，上流側に飲食店が並び下流側に物販が比較的集まる構成となり，店舗前にタンドゥン（歩道：約 2m幅）が設けられている．水面との差は 1.0m程であり，店舗前にはバンダイがあり，店舗ごとにベンチやアルコープ的なサラアターナムなどを設けている．

コーン・バン・ルァングは，水路に面して店舗とタンドゥンが配されているが水面とは 1.2m程の差がある．また，店舗は片側だけであり，距離も 200m程である．

タリンチャンは，ポンツーンを用いた基盤上にキャンティーン市場を形成し，水路上にはルアーパーイによる物売りが陸域の市場の水際に沿って係留されている．また，市場的集合は水路背後に 3 ヶ所に分化して構成されている．

４．おわりに

バンコクの水上マーケットは，アジアにおける水辺の営みの代表的な場所であったが，近年の都市化の趨勢によりその姿は消滅してきている．しかし，内発的努力により，1 村 1 品運動などを盛り込むことで新たな観光資源として再生がなされてきている．

５．参考文献

[1] 畔柳昭雄他：「アジアの水辺空間 - 暮らし・集落・住居・文化 - 」，鹿島出版会，1999.11